

【朝鮮の写真アルバム】

三度目にはなりますが、「朝鮮の写真アルバム」にある写真を紹介します。

・南大門



この写真は「崇礼門」と言います。

ソウルは朝鮮王朝の首都となった当初、城門の外郭に四つの大門と四つの小門が設けられました。南に位置するこの大門が崇礼門ですが、「南大門」という呼び名の方が通りはいいでしょう。交通の要衝に位置し、八つの大小門の中で最も重要な正門でもあります。ソウルの有名な観光地の一つであり、日本でもよく知られています。

韓国の国史編纂委員会による「韓国近代史料データベース」

(<https://db.history.go.kr/>) にこれと同じ写真があり、明治30年(1897)

頃に撮影されたということです。

・恵化門



これは恵化門です。四小門の一つで東小門ともいいますが、ホン・デヒョン『韓国の建築文化財 ソウル編』（技文堂、2001）によると閉鎖されていた北の大門の役割も担うなど、四大門に劣らない重要な門でした。

・北岳山



この写真には正宮である景福宮の後景に北岳山が見えます。十六回目に紹介し

た光化門も写っています。

・西十字閣？



これは西十字閣ではないかと見られます。今はもうありませんが、よく似た東十字閣が現存しています。両者は景福宮の東南と西南の隅に望楼としてつくられました。

同じ写真がいくつかの韓国のサイトにも載っています。

【笠間兄弟】

「朝鮮の写真アルバム」からは離れ、『須永文庫資料集 明治21・22年 須永元日記』（以下『日記』）について補足します。

『日記』の「翻刻を終えて」（118頁）で笠間姓の人物の同定に戸惑った件について触れました。しかし、最近充実の著しい「国会図書館デジタルコレクション」のおかげでこの問題も解決しつつあります。

この中で「凸凹」と「凹凸」は同一人物と推測し、「岳」「崑」「巖」も同じ人物

だとみて、「凸凹」「凹凸」は「巖」の号かも知れないと書き、さらに「巖」が「靖」と改名した可能性も示しました。

最近、国会図書館デジタルコレクションをみて、「靖」の幼名が「巖吉」だったという記述を見つけました（『日本現今人名辞典』,日本現今人名辞典発行所,明

34.12. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/782772>)

(参照 2025-07-26)。靖と巖が同一人物だったのは確かだと思われます。ただ、『日記』では「靖」の後に「巖」という表記が出て来ることもあるので、さらに調べたいと思います。

また、「巖＝靖」と「宜輔」の笠間兄弟は埼玉県小川町の出身ですが、なぜ佐野の須永と親しい関係なのかが謎でした。しかし、「少青年時代、群馬県（原文ママ）の佐野の母方の家で過ごした」（埼玉評論社編『埼玉人物評論』第壹輯、1935年）と書く文献があります（<https://dl.ndl.go.jp/pid/1122437>）（参照 2025-07-28）。群馬県とあるのは栃木県の間違いではないかと思われます。群馬には佐野村があったので、混同したのかも知れません。

『日記』の注釈には書き漏らしましたが、明治22年5月11日などに弟の笠間宜輔が出て来るので、注釈を追加します。

【笠間宜輔】

1874年、現在の埼玉県小川町に生まれる。1890年、慶應義塾入学、18

95年、正科卒。帝国商業銀行、日本銀行を経て、東京・神田で新聞雑誌の広告
取次「金蘭社」を引き継ぐ傍ら、地元で質業を営んでいた父平右衛門から家督を
譲られ、平右衛門を襲名。東京・小石川区会議員を務める（『慶應義塾出身名流
列伝』）。

なお、佐野の郷土史などにも見える同名の笠間平右衛門についてはさらに考え
たいと思います。

2025年7月31日 広沢有久

2025年8月9日 笠間宜輔の卒業年を修正しました。

須永文庫資料研究室のアドレスは <https://sano-haku.com/sunaga-bunko/>